

# 赤沼古代瓦窯跡(比企郡鳩山町)

中央遠方の小屋が赤沼古代瓦窯跡





前方斜面に赤沼古代瓦窯跡が見える











あか めま こ だい かわら かま あと

# 赤沼古代瓦窯跡

赤沼古代瓦窯跡は、昭和25年に発掘調査されました。窯跡の発掘調査では県内でも最古例の一つで、同年ただちに県指定史跡に指定されています。当時は武蔵国分寺の瓦を焼いた窯跡と考えられていましたが、近年の調査で、国分寺以前の瓦窯跡であることが明らかになりました。7世紀後半から8世紀初頭頃の窯跡です。窯跡は、瓦専用窯ではなく、須恵器窯としても使用された地下式登り窯です。

この窯で焼かれた瓦には、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦があります。軒丸瓦には、単弁8葉・12葉軒丸瓦と複弁8葉軒丸瓦などがあり、軒平瓦には細格子目文軒平瓦があります。これらの瓦は、白鳳寺院としては武蔵国最大と言われている勝呂廃寺(坂戸市勝呂)に供給されており、何れも、勝呂廃寺の創建期の軒先を飾った瓦であることが判明しています。

瓦窯は1基だけでなく、さらに2基横並びで築かれているようです。またこの斜面には勝呂廃寺関係の瓦窯跡がまだいくつか地下に眠っているようです。赤沼の地は、勝呂廃寺の一大瓦窯場であったと考えられます。南100mにある石田1号窯跡(平成5年発掘)は、そうした窯の一基です。

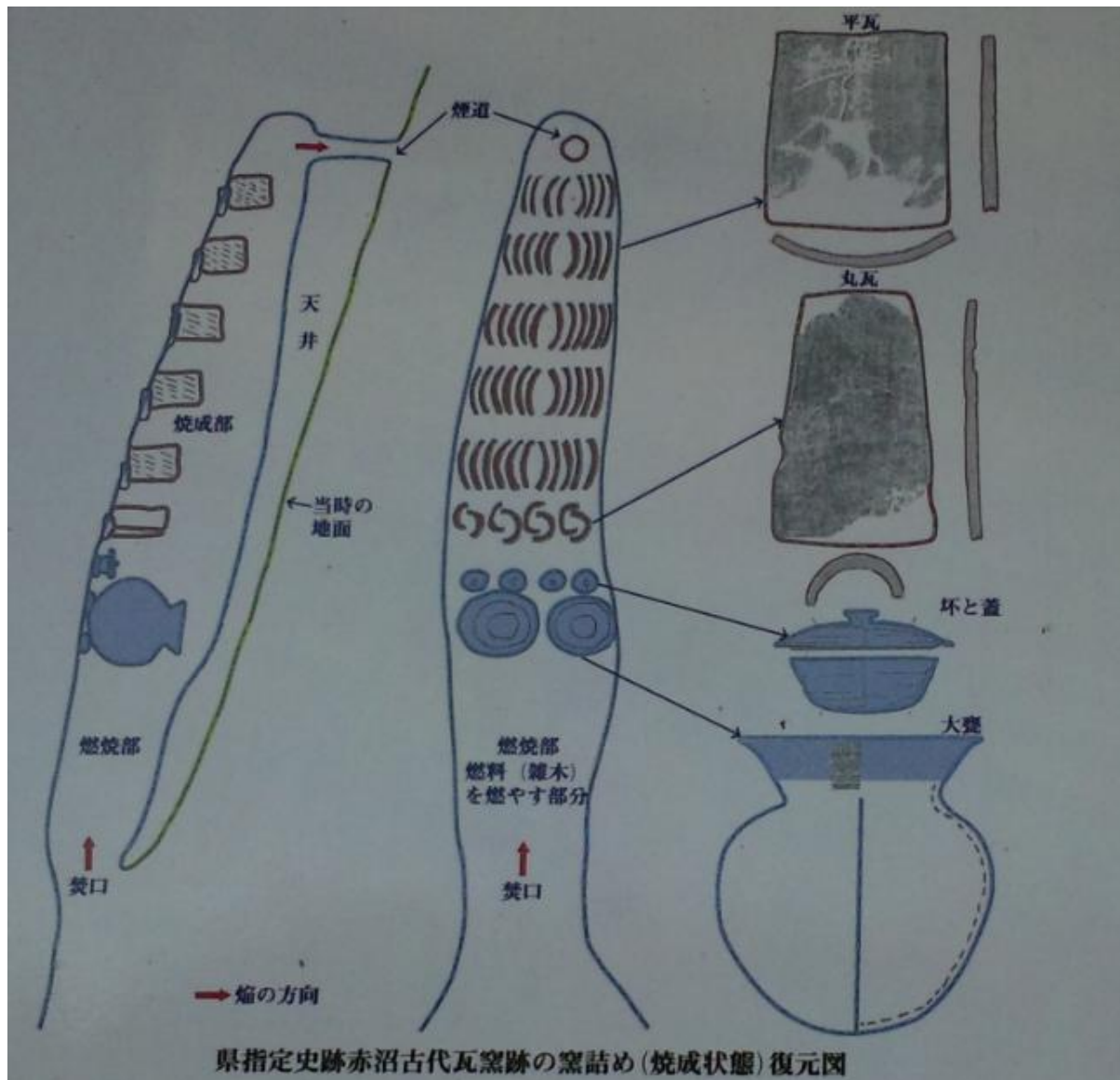


単弁8葉軒丸瓦と細格子目文軒平瓦

石田1号窯を含め、赤沼古代瓦窯跡では、瓦以外に須恵器も焼いています。その中には武蔵国最古級の硯や水瓶(仏具)も含まれています。こうした窯を瓦陶兼業窯と呼んでいます。

赤沼古代瓦窯跡は、奈良時代以前の地方寺院とその瓦の供給関係がよく分かるきわめて貴重な窯跡です。





小屋の内部





埼玉県指定史蹟

阿伽

國分寺五土春須惠忍寺赤沼空然

赤沼古代瓦窯跡から石田1号窯跡方向を望む



石田1号窯跡



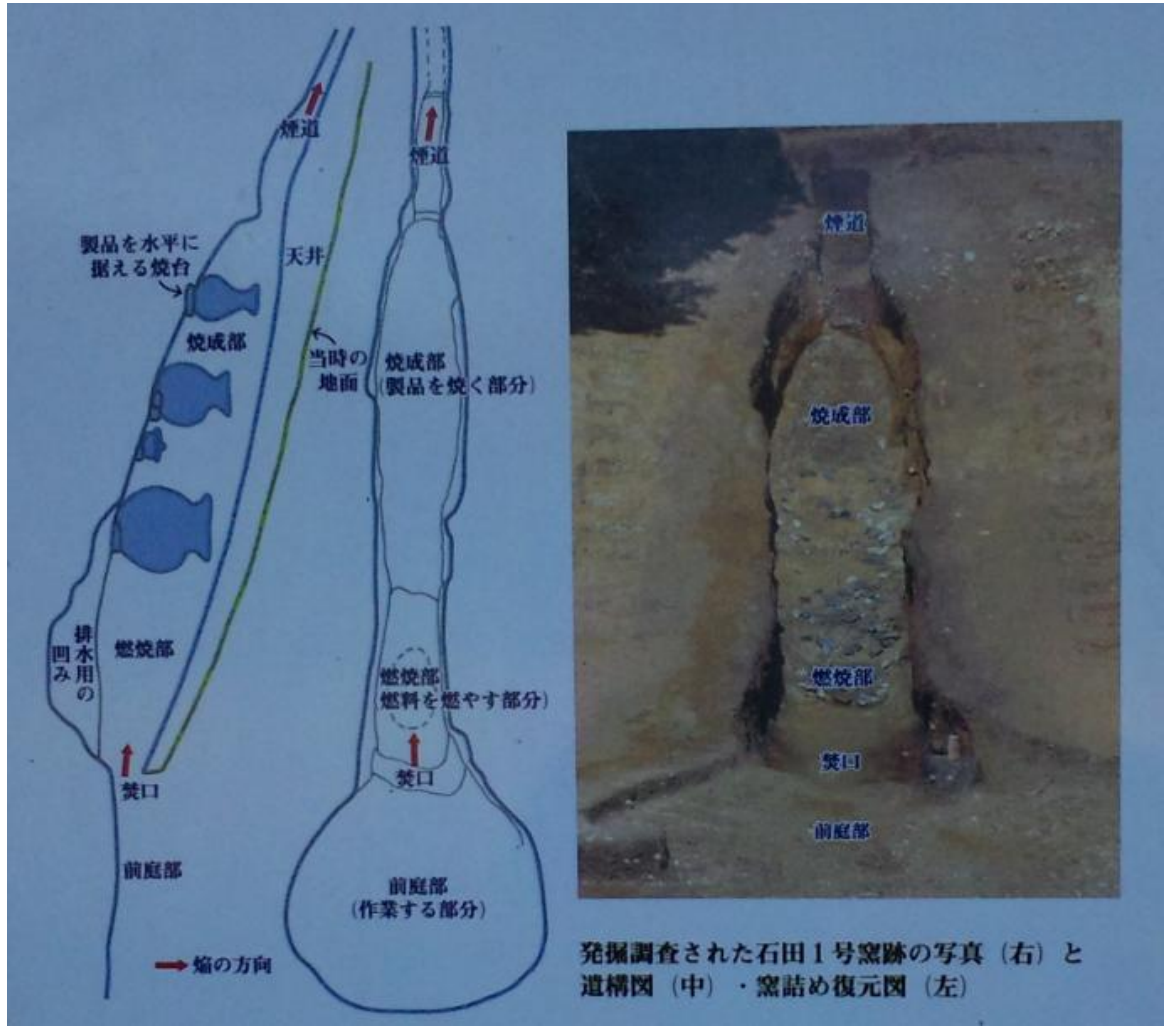
# いしだ1ごうようせき 石田1号窯跡



発掘調査された石田1号窯跡の写真(右)と遺構図(中)・窯詰め復元図(左)

石田1号窯跡は、平成5年に発掘調査されました。須恵器と瓦を焼いた7世紀後半の瓦陶兼業窯跡で丘陵のなかに築かれた窯跡としては目下、鳩山町最古です。奥壁から横に煙道が長く伸びる特徴的な構造の窯や焼かれた須恵器などから見て、石田1号窯跡は東海地方の専門工人により操業されていたようです。瓦は勝呂庵寺(坂戸市)で使われました。法面の下には窯体(焼成部)が遺存しています。

平成20年8月 鳩山町教育委員会



発掘調査された石田1号窯跡の写真(右)と遺構図(中)・窯詰め復元図(左)

左手が石田国分寺窯跡







県指定史跡 平成8年3月19日指定

# 石田国分寺瓦窯跡

石田国分寺瓦窯跡は、平成5年の町教育委員会が行った発掘調査で新たに発見した瓦窯跡です。調査した灰原の規模等から見て、山林の下には3～5基の瓦窯跡が、横一列に並んで築かれていたようです。

この窯で焼かれたのは瓦と塼で、瓦には、蓮弁文の軒丸瓦・軒平瓦と丸瓦・平瓦があり、いずれも武蔵国分寺の創建期8世紀中頃に使われた、いわゆる「国分寺瓦」です。この中には「郡名瓦」(郡名を押印・ヘラ書した瓦)も含まれています。「子玉」(児玉郡=現児玉郡)、「那」「中」(那珂郡=現児玉郡)などの県北西部の郡名瓦が多く焼かれていましたが、ほかに「男」(男衾郡=現大里郡)、「荏」(荏原郡=現東京都世田谷区・大田区)、「高」(高麗郡=現入間郡)などもあります。

この瓦窯跡は、窯体構造でも注目される窯です。火道を数条備えた、「ロストル式平窯」と呼ばれる最新式の窯であった可能性が高いからです。しかも、同型の窯構造であった久保1号瓦窯跡(南に200m)とともに、全国的にみても導入時期が大変早いからです。

鳩山町は、武蔵国分寺の屋根瓦を焼いた武蔵国最大の窯場であり、生産方式は、大きく二つの形態からなっていたようです。一つは、在来の須恵器工人によるもの、一つは、外来の専門の瓦工人によるものです。石田国分寺瓦窯跡は、後者を代表する瓦窯跡であり、武蔵国分寺の創建期の瓦生産体制を理解することのできる貴重な瓦窯跡として、平成8年に県指定史跡となりました。



「児」(児玉郡) 「子玉」(児玉郡) 「那」(那珂郡)



「那瓦」(那珂郡瓦) 「荏」(荏原郡) 「男」(男衾郡)



「児」(児玉郡)



「子玉」(児玉郡)



「那」(那珂郡)



「那瓦」(那珂郡瓦)



「荏」(荏原郡)



「男」(男衾郡)

# 県指定史跡石田国分寺瓦窯跡



図1 石田国分寺瓦窯跡の概要

鳩山町は東日本有数の古代窯業地です。7世紀後半から10世紀前半にかけて大量の須恵器（陶器の母体）が焼かれ、その製品は武蔵国やその周辺に流通しました。また須恵器とともに瓦も焼かれました。とくに白鳳期（7世紀後半～8世紀初頭）と国分寺建立期（8世紀中頃）の2時期には大量の瓦が焼かれました。前者は同じ谷のすぐ上流側にある県指定史跡赤沼古代瓦窯跡です。後者はその中心となる県指定史跡石田国分寺瓦窯跡をはじめとして、鳩山町のなかに数カ所の窯跡がつけられました。（写真は発掘調査時（平成5年）の写真。瓦窯跡の範囲は電気探査等で判明した想定範囲。）

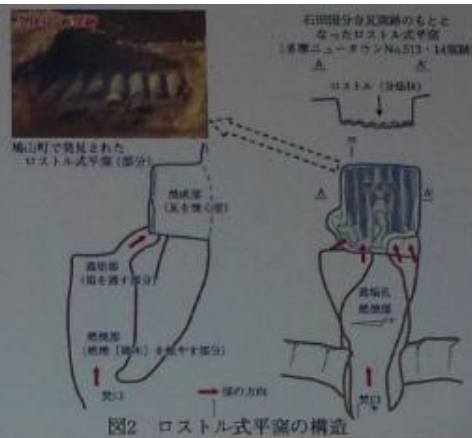


図2 ロストル式平窯の構造

図2の瓦窯跡は多摩川沿岸に造られた武蔵国分寺瓦窯跡の一つで、武蔵国では最古のロストル式平窯跡です。石田国分寺瓦窯跡はこの瓦窯の技術的影響を受けているので、同構造の平窯であったと思われます。左上は鳩山町で発掘調査された同時期のロストル式平窯跡の焼成部の写真です。



図3 鳩山町の国分寺瓦窯跡

鳩山町のなかには大きく二つの国分寺瓦窯跡（瓦窯跡A・B）が造られました。瓦窯跡Aは、国分寺建立時のみに須恵器の窯跡群から独立して設営された専用の窯跡です。瓦窯跡Bは、須恵器窯跡を臨時的に使用した須恵器と瓦の兼用の窯跡です。二つの瓦窯跡で焼かれた瓦は、約40キロメートル離れた武蔵国分寺に運ばれました。





鳩山町で発見された  
ロストル式平窯(部分)

石田国分寺瓦窯跡のもと  
なったロストル式平窯  
(多摩ニュータウンNo.513・14窯跡)

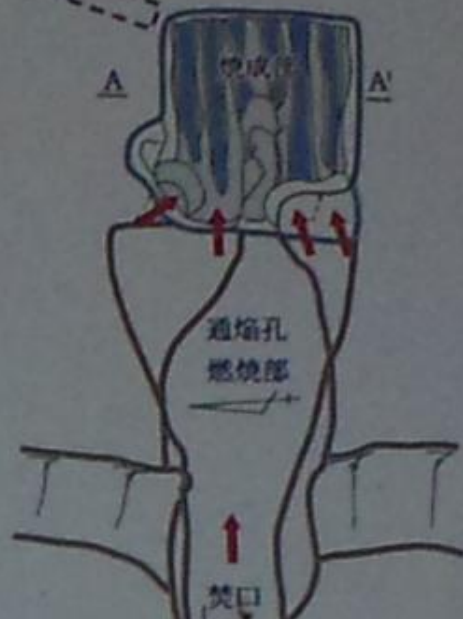
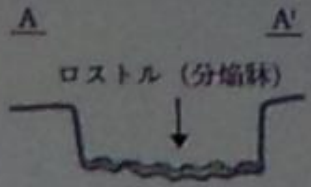


図2 ロストル式平窯の構造



# 緑と水に親しむ 散策道整備事業



- P 駐車場
- WC トイレ
- ベンチ
- モニュメント





インターネットより

参考資料

<http://blog.goo.ne.jp/daidi/e/2ab926ae28d01dc44591e0ac38280bb4>

<http://www.musashigaku.jp/newpage46.htm>